

2006年3月14日

武・戸田両委員長の保釈実現にあたって －御礼の報告に代えて－

全日本建設運輸連帯労働組合
中央執行委員長 長谷川 武久

全日本建設運輸連帯労働組合
近畿地方本部
執行委員長 戸田 ひさよし

全日本建設運輸連帯労働組合
関西地区生コン支部
執行委員長 武 建一

既報のとおり、先週8日午後1時すぎ、武建一委員長（連帯労組関西地区生コン支部）が1年2カ月ぶりに保釈されました。少し遅れて、戸田ひさよし市議（連帯労組近畿地方本部委員長）も3カ月ぶりに保釈されました。

待望の保釈が実現できたのは、この不当な権力弾圧とのたたかいを親身に支えて下さった全国のみなさま方のご支援のたまものです。

この間、各地の労働組合、労働団体、市民運動、政党、政治団体、生コン及び生コン関連中小企業家、中小企業団体、国会・地方議会議員、弁護士、ジャーナリスト、編集者、学者、作家、評論家といった、お名前を全ては書ききれないほど数多くの方々から、さまざまに心温まる励ましや助言、そして物心両面のご支援を頂戴してきました。全組織を代表して厚く御礼を申し上げます。

また、卑劣かつ執拗な国家権力の攻撃にひるむことなく、たたかいを発展させてきた全国の組合員とご家族のみなさんにも心から感謝申し上げます。

あらためてくり返すまでもなく、昨年1月にはじまる一連の事件（関西地区生コン支部事件）は、生コン労働者と中小企業がすすめてきた政策闘争をつぶすことを狙った「国策捜査」というべき権力弾圧です。すなわち、大企業中心の経済・産業のしくみを中小企業と労働組合が力を合わせて改革し、中小企業の経営安定と労働者の雇用の安定を実現し、同時に消費者に高品質な生コンを安定的に供給する業界づくりをめざした運動に対する弾圧です。

また、連帯労組関西地区生コン支部は企業のワクをこえた労働組合づくりをすすめ、「シャブコン」など建設現場にまん延する不正を告発し、社会正義を実現する活動を展開するとともに、イラク戦争と自衛隊派兵に反対するストライキや韓国労働者との共同闘争など、支配者のすすめる戦争とグローバリズムに反対するたたかいに積極的にとりくんできました。国家権力は、こうした本来あるべきまっとうな労働組合運動を実践する関西地区生コン支部を潰滅させることを目的にしてきたのです。

武委員長が保釈されたからといって、それがただちに一連の権力弾圧の終わりを意味する訳ではありません。警察・検察は、いまなお新たな事件を仕立て上げようと画策しています。保釈はたんに弾圧劇の第1ラウンドが終了したことを意味するにすぎないと見るべきであり、私たちは引き続き警戒心を高め、弾圧をはねかえす運動を強めていかねばなりません。

しかしながら、この弾圧劇は明らかに破たんしつつあります。

たしかに、武委員長はじめ多数の支部役員が不在の1年余りのあいだに生コン業界改革の活動は一定程度停滞を余儀なくされました。しかし、そうだとすると、そのマイナスを補ってあまりあるほど、この弾圧とのたたかいを通じて、生コン産業政策協議会の団結や連帯労組自身の組織は質的にも量的にも著しく強化、拡大することができました。

さらには全国のみなさんの力強いご支援の広がりや、ジャーナリスト、評論家、学者、弁護士らがよびかけた「国策捜査」反対の署名活動などによって、私たちは以前と比べものにならないほど多くの方々とつながりをもって運動を発展させる基盤を得ることもできました。

私たちは今後、その力と基盤をよりどころにして、まず第1に、一連の刑事裁判において無罪判決を獲得して、文字通りこの卑劣な国策捜査を中小企業と労働組合の勝利で終結させるべく奮闘していきます。

同時に第2に、政策闘争を以前にもまして確信をもって全国に発展させるべく努力します。そして第3に、連帯労組の組織を質と量の両面で飛躍的に高めるよう努力していきます。

その決意を披瀝しつつ、重ねてみなさま方のご支援に感謝申し上げ、また今後一層のご支援をたまわりますようお願いし、とりいそぎ御礼の報告と致します。

なお、保釈直前にお願いした署名活動は、よびかけ人の方々と近く相談会を開き、無罪判決実現等を趣旨とする署名活動として改めてスタートさせる予定です。詳細が決まり次第、再度みなさまにご協力をお願いすることになりますが、その節は宜しくお願い致します。

以　　上